

講義名	対)空間市場分析特論			授業形態	
担当教員	三谷 哲雄 / 上田 真由美 / 岸野 啓一	開講期・曜日・時限	前期 水曜日 2 時限		
		単位数	2	履修開始年次	1 年生
				ナンバリング	

主題と概要

注意
PDFファイルでは全ての内容が表示されない場合があります。必ずRyukaPortalのシラバスWebページで確認してください。
この科目は、「対面のみで実施する」科目です。詳細は、「履修にあたっての注意・助言他」に記載していますので必ず確認してください。
「備考」には、受講上のアドバイスを記載しています。必ず確認してください。

本科目は、3つのパートで構成する。

(1) パート1 (上田) 「位置情報」

「位置情報」というものがビジネスに活かされるようになってきた。IoTと呼ばれる仕組みにより、様々なモノがインターネットにつながり、その状態をリアルタイムに把握することが可能となったことから、新しいビジネスが次々に登場している。ここでは、位置情報を追跡(トラッキング)することで実現する社会、位置情報のトラッキングを実現する技術について議論する。

(2) パート2 (岸野) 「観光地交通計画」

交通は、人々の日常生活や経済活動を支える重要な役割を担っており、様々な目的で交通計画が立案されている。本講義では、昨今、観光まちづくりが各地で活発に行われる中、観光地交通計画をテーマとする。はじめに、観光地で起こる交通問題を体系的に整理し、観光地交通の円滑化を図るための考え方や計画手法について論じる。

到達目標

受講生は、本科目で紹介される上記の3テーマに関して理解を深め、空間市場に対する自らの意見を提案できるようになる。

提出課題

(1) パート1 (上田)

位置情報のトラッキングを活用するサービスについて、講義で取り上げなかったサービスを見つけ出し、その特徴をまとめたレポート作成および発表を行う。講義で取り上げなかった位置情報のトラッキングを活用するサービスを見つけ出し、その特徴をまとめたレポート作成および発表を行う。

(2) パート2 (岸野)

観光地の渋滞対策に関する事例について、その特徴や効果などを考察する課題をレポートとして課す。

(3) パート3 (三谷)

講義中に利用した地域データに基づき、地域の課題やその解決策に関するレポートを提出。

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバックの方法

各教員から指示がある。

評価の基準

各教員ごとに33.3(100/3)満点で評価し、それらの合計点数が評価点となる。各パートでは、授業参加度と課題レポート評価の合計で採点される。各教員とも、成績は、授業参加度に30%、課題レポートに70%の配分となる。それぞれの課題レポートにより達成度を評価する。

履修にあたっての注意・助言他

(0) 授業の実施方法

1) 実施形態
この科目は、「対面のみで実施する科目(対面1クラス)」です。途中から対面とオンデマンドの並行開講に移行することはありません。全ての授業を対面で開催します。理由は、オンライン形式の授業では、到達目標を達成することが非常に困難なためです。

2) 学校感染症の中で特に新型コロナウイルス感染症による影響で一時的に通学が困難となった場合
当該学生には、通学停止期間中の対面授業の講義資料の配布、授業動画の提供、通学停止期間中に提出期限が設定された課題の別途提出許可、要望に応じて補習授業の提供、などを必要に応じて実施します。詳細は、該当する授業日の担当教員の指示に従ってください。

教科書

.使用しない。

参考図書

その他

各教員から適宜、指示がある。

授業計画

01-05(5回) [上田]

- 1)位置情報とは
- 2)位置情報の追跡(モノの見守り・人の見守り)
- 3)位置情報の追跡(移動を追う)
- 4)位置情報を追跡するための技術
- 5)レポート提出・ディスカッション

06-10(5回) [岸野]

- 1) 観光地の交通特性
- 2) 観光地の交通問題
- 3) 観光地交通計画の考え方や手法
- 4) 観光地交通計画の事例
- 5) レポート提出・ディスカッション

11-15(5回) [三谷]

- 1) 地域情報のデータ分析法
- 2) 日本の人口動態
- 3) 交通事故と地域特性
- 4) 買い物行動と地域特性
- 5) レポート提出・ディスカッション

授業形態(アクティブ・ラーニング)

ア:PBL(課題解決型学習)	イ:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
ウ:ディスカッション、ディベート	エ:グループワーク
オ:プレゼンテーション	カ:実習、フィールドワーク

キ:その他(A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)

教員により異なる。

準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習及び復習の時間は、それぞれの担当教員ごとに、1)~4)の講義内容に関する事前確認や下調べ、講義資料の事後確認に毎回4時間程度、最終回のレポート作成に4時間程度を目安とする

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

卒業認定・学位授与の方針(DP:ディプロマ・ポリシー)に示されている要件に対する当該授業科目の寄与の程度を行頭[]内に4段階(0~3)に分けて記載する。各段階の意味は、教務部の指示に従った。

[3] 1 理論的・実証的な課題を研究するために必要な科学的的方法論を身につけていること。

[1] 2 研究者として、流通科学諸分野における豊かな学識と研究能力を身につけていること、または高度専門職人間として、より実践的・課題解決的な能力を身につけていること。

[0] 3 特定の流通科学分野において、専門的な研究を行い、修士論文あるいは課題研究の成果を完成させていること。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

教員ごとに使用機材は、異なります。

実務経験の有無及び活用

教員ごとに異なります。

備考

受講上のアドバイス

(1) RYUKA Portal (リョーカ・ポータル)

1) 必ず確認すること
受講生の皆さんへの連絡は、授業中だけでなく、適宜、RYUKA Portal でも行います。RYUKA Portal での講義連絡などの確認は、「My時刻割」ページが便利です。科目ごとの講義連絡やレポート課題などを一覧できます。講義資料は、講義連絡で配布される場合がほとんどです。講義連絡のページには、掲載期限があります。掲載期限を過ぎたら、ダウンロードできません。連絡を受けたら速やかにダウンロードし、自分のPCやスマホなどの端末に必ず保存してください。レポート課題を提出した後は、その提出状況を必ず確認してください。